

表題 「トゲソ」よ、いつまでも

所在地	五泉市大字赤羽	区分	動植物
活動主体	五泉市トゲソを守る会		
照会先	高橋 荘三 TEL.0250-42-3956		

環境の特徴

「清流の里ごせん」を象徴するトゲソ（俗称）〔イバラトミヨ（和名）又はキタノトミヨ（標準和名）〕が生息。川エビ、トミヨ類、ホトケドジョウ等湧水の生態系が保全されている。

環境の変遷

五泉市をはじめ県北部にはトゲソが分布していた。しかし昭和40年代頃からの水路の改修、農業使用、生活排水の流入によって県内での生息地は数十か所に激減している。五泉市でも4か所しか生息していない。トミヨ類の方言としてイトヨノコ、クニメグリ、トギシ、イシャジャなどの呼び名がある。五泉市では、トゲソと言う。

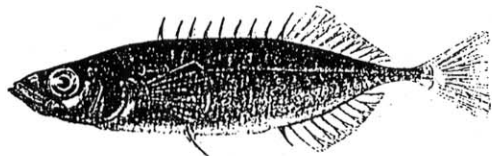


活動の経緯・成果

平成8年10月、トゲソの生息が2年ぶりに五泉市内で確認され、紙上に報道された。これを見た「まちづくり」に取り組んでいるグループが学習会を開き、研究者や、中条町でイバラトミヨを守る活動をしているグループと交流した。

平成9年春には、トゲソの現地観察会（60人参加）を開催し、参加者の呼びかけで「五泉トゲソを守る会」を結成した。当日は、新潟市水族館マリニピア日本海の協力で水中カメラによる生態観察などを行った。同年秋には五泉市が計画している「清流の里公園」に、トゲソの棲む池を作るよう市に要望した。この際事前に、候補地のハンノキ林の植生を調査し、トミヨ類の保護、増殖、育成、観察のための池の計画図を提出した。

今後は、この池づくりのために水族館等専門家のアドバイスを受けながら、市の行う池作りに係わり、更には維持管理に係わっていく。また、五泉市の清流のシンボルとして学校教育に取り上げてもらい、環境学習の生きた教材として学んでもらいたいと思っている。



ーイバラトミヨー (俗称トゲソ)



巣を作り、子育てをする
珍しい魚さん。



現地観察会